



世
俗
子
家
文
全



平假名附

世活千文字

松榮堂

世活千文字

園曆堂交市代卷平

何國務證自他考甚

市店交易廻船運送

荷お米穀 終は負致

幼定其用 高愛好之昌

富貴榮耀 悦界歡樂

益殖利息 延妙金銀

善法成就 結攝滿足

新宅傳移 先以安堵

父母強居 儀与財室

家督相續 活計有殺

人 ひと 和 わ 律 りつ 戎 じゆ 慮 りよ 志 し

申 まを 绪 しよ 系 けい 身 みん 委 い 细 さい 闻 もん 信 しん

婚 こん 姻 いん 信 しん 秩 ち 恒 こう 例 れい 格 かく 式 しき

朋 ほう 友 ゆう 妹 まい 介 けい 始 し 终 しゆう 所 しよ 悉 しつ

玄 げん 關 くわん 書 しよ 院 いん 掃 そう 除 じゆ 奇 き 靡 み

庭 てい 茶 ちや 檼 せつ 挑 てう 用 よう 敷 しき 多 た 矣 い 中 ちゆう

賓 ひん 客 かく 來 らい 臨 りん 高 かう 皇 かう 紿 たい 走 そう

遠 えん 逝 し 餐 さん 夜 や 志 し 者 しや 因 いん 澤 たく

料理塩梅 けりりあんたん 鮮魚脰炙 あまうとくまきりあめ
 給仕配膳 きしきん 扈從忽劇 こしやうとつげき
 宣夜振舞 せんやふるまひ 會席優長 くわいせきゆうちやう
 象戲雙及六 しやうぎすわいろく 田基礎鞠 あでいしうまぐ

傳書遠素 でんしやうえんそ 鴉處松竹 あつちまうしやうたけ
 逼射勢劣 ひつせつせうりやく 作勝青吐 さくせうせいと
 酒毒遊真 しゆどくゆうま 斟酌醜打 しんしやくしうだ
 次身醉紅 しよみすいこう 橙柄僭上 ちやうへいけんじやう

こいごうまうりたうと
 後給馬麻 ちんまきしんとうりん
ちんまきしんとうりん
 多振嘲嘆
ちんまきしんとうりん
 豺又狼藉 ちんまきしんとうりん
 不顧意外
ちんまきしんとうりん
 徘徊汗陌 ちんまきしんとうりん
 從初口論
ちんまきしんとうりん
 喧喚發勃 ちんまきしんとうりん
 因章類例

ちんまきしんとうりん
 大膽我慢 ちんまきしんとうりん
 倚案一葉
ちんまきしんとうりん
 回支野卑 ちんまきしんとうりん
 天晴徑強
ちんまきしんとうりん
 率尔亦擲 ちんまきしんとうりん
 坐恨聲憤
ちんまきしんとうりん
 互率雌雄 ちんまきしんとうりん
 已及丑傷

作以通達 吟味穿鑿
遠宵展轉 會談彈判
落落美舍 沙汰淘底
胡亂野淨 勇肩雜舌

其外難透 吹毛求疵
巨細申暢 許容不茹
密法賄絡 堪忍樞機
依估具履 刑罰教免

くろきん 孔借因窮 くろきん 簡曝之怪
くろきん 愚痴蒙昧 くろきん 貪欲愈深
くろきん 放逸懶惰 くろきん 藝能廢忘
くろきん 空乏之光陰 くろきん 惴惴之後悔

くろきん 良久之癖 くろきん 勸勵執事
くろきん 師道益刻 くろきん 勤學滿載
くろきん 指畫叮嚀 くろきん 卑可傳受
くろきん 執事從德 くろきん 雙朴冷劑

保梁才智くわりのち 周旋仕官まわってつかい
忝賜俸禄はにかまはらふ 出頭令盛あつとらせむ
獵場致固うまのいこ 供奉堂上ぐぶのやう
形態洋かたちやう 益量寬闊えんくわん

名利装束めいりきやうぶく 押換花奢おしかへはなせ
權丞保役けんじやうほやく 轉獲名歎まわるとくななげ
特叙褒美とくじゆほび 長服特領ながふくとくりやう
再三頂戴さんさんてうがい 冥加玉極めいがかたまご

飛番休日 祀廟未始
尚守依然 奴僕睡眠
盜賊除恒 抱燒逐色
追封揭捕 火急携向

接濟理按 悲憫自伏
免有軍令 早音院罷
武具不常 悉皆秘藏
門戶牆壁 必須要害

このまゝんめい
遠般多命 於部巡見
早速發誓 肯途離別
暇心飾婚 柳表寸志
列深入鬼 尚殘在存

あまのえんこまぢ
別得厚恩 杖持極育
偏惜存彼 倭胡面獨
歌路芳頰 故郷想像
海陸程遠 數萬雲泥

唯今便宜 其札刻志
文章披覽 恰似對顏
飛脚催促 即老返家
森多區箇 供水迷惑

由多者為乃 荒坊推聚
物者素內 須令同伴
明且刻限 拂曉後引
消遙歷快 浦德暫憩

隨之納涼すまのほしやうしやう
 漸之酷暑あきあきのあつさむ
 馳之風情あつさむのよせま
 系之發育けいしやうのあひだち
 聖之清淨せいじやうのせいじやう
 救之禁制きうしやうのきんせい
 社壇捐額しゃだんけんがく
 燈籠普運とうろうふん
 進初しんしつ

佛殿莊嚴ぶつでんじやうげん
 後羅綿繡ごらわたんしゅう
 祈禱懺摩きとうざんま
 惡魔降伏あくまかうふく
 私教方趣しけうかたしゆ
 恭抽丹竈きんしゆたんざん
 吉曲行禱きちくかうばう
 反寇安助はんこうあんすけ

紫微神妙しんみょう 信作崇教しんさくしゅうけう
 堂塔伽藍たうたつがらん 若于敗壞じやくしよばい
 尚耐檀那しやうないだんな 護分初道ごぶんしよだう
 傳起記錄でんききろく 粗考監餽そかうかんきゆう

能徑教持のうけいしやう 扶授感熟しゆじゆかんじよく
 破換恢履はくわんくわい 助力建立しゆりきんけん
 以間幸忘いけんしやうわう 彼無慈切はなむじせき
 信侶列產しんりよれつざん 耆翁經傳しよおうきやうでん

知識呪法 ちしきせうほう 心是身者 しんしつんはみ

老少男女 らうせうなんにょ 醜鬼群集 しゆうきぐんしゆ

布能其真 ふのまこと 被附古根 ひつりここん

下向山徑 げかうさんてい 險阻者低 けんそしやてい

歩乃辛者 ふのしんしや 草外邊際 そうがいへんがい

去產菓子 きざんかし 各種饅頭 くわんしゆまんと

兜重共者 たうじゆうきしや 貴殿彼障 きでんかしょう

阿孃冠者 あぢやうかんしや 將又輕薄 しやうまたけいはく

傍於旅宿あつちのあそりよしをこ 退屈病たいくつびやう
 於肺療治うんそくやうち 製菓調合せいかやうち
 名譽めいよ 医術いじゆつ 保親ほしん 本懐ほんくわい
 性還しやうげん 無美むび 呼鉞こくげん 恥重ちじゆう

至初登城しうしゆとうじやう 偶覓ぐくみ 穢穢しやうしやう
 每遂まいすい 何候なにこう 公勢こうせい 混雜こんざつ
 忠告ちゆうかう 勳由うんゆう 恭世きやうせい 稱嘆しやうたん
 君臣きんしん 純熟じゆんじやく 及およ 得思とくし 思し 悦えつ

仁政惠民 農業之鏡
百姓之稅 亦秋之歲

小野宗公書

世活ふ字の文終

東系錦繪新板物

大津風流

市外繪半額活字法入

大坂心舟橋在八幡筋の
本屋為助

